

—雨水ポンプ場って

どんな働きをするんですか？

浸水被害を少なくするために、降った雨を川に流す手助けをする施設なんです。市内にはここ前川雨水ポンプ場のほかに、加茂や矢間、東多田にも雨水ポンプ場があります。それぞれのポンプ場が担当する地域には、雨水が川に流れにくい場所があるんですけど、水路や地中の雨水管を通して雨水を集め、ポンプを使って川に押し流すのが働きです。

—西日本豪雨のときには、どのような様子でしたか？

前川雨水ポンプ場では、1時間当たりの雨量が一番多かったのが7月5日の午後9時から10時の間で、35ミメートルほどでした。このときは5台のうち4台のポンプを動かして、そのうちの2台は、30分程度動き続けたんです。

普通なら1台のポンプが動くくらいなんで、やっぱり雨量としては多かったんですが、1時間当たり51ミメートルの雨までは処理できる設計なので、問題はありませんでした。

設計で想定している雨量よりも少

なければ、今回のように長時間降り続いても処理できるんです。でも、最近では、ゲリラ豪雨が怖いですね。

—最近多いゲリラ豪雨には

何か注意が必要でしょうか？

普通の雨であれば事前に準備をすることも可能ですが、ゲリラ豪雨は短時間で多くの雨が降ることに加えて、予想ができないことが問題です。それに雷を伴うことが多くて、落雷による停電や施設の破損など、複数のトラブルが同時に発生することに注意する必要があります。



停電だけであれば、自家発電装置

で対応することができそうですが、停電と同時に落雷で電気施設が破損してしまうと、ポンプの運転に支障が出ることも考えられます。

もちろん避雷針などで雷対策を行っていますが、万一、破損が発生した場合でも、できるだけ短時間で復旧するために応急処置で運転できるようにしています。そこには職員の経験値が必要になってくるので、技術の継承の大切さを実感しています。

7億円かけ 老朽機器を 更新しました

—ところでこの機械、 とてもきれいな状態ですね。

この前川雨水ポンプ場には、ポンプを動かすためのエンジンが5台あるんですが、平成25年から5年をか

けて、エンジンなどの老朽化していた機器を新しくしました。費用は約7億円をかけています。

このエンジンは一番古いもので39年、新しいものでも28年経過していました。しっかりメンテナンスして寿命を延ばしてきましたんですが、これからの維持管理費用を抑えるのと、何よりも安全のために、順次更新を進め、去年、更新作業が完了しました。ほかのポンプ場も計画的に更新させていて、加茂雨水ポンプ場でも順次作業を進めています。費用は平成33年度の完了までに約6億円を見込んでいます。

これらの更新にあたっては、できるだけ費用をかけずに能力を維持、向上できるように頑張っているんですが、将来的にはさらなる更新の必要があります。なので、5年ごとに更新計画を見直し、より効率的な更新ができるようにしています。

最近では、維持管理でも省力化や自動化など、新しい考え方も出てきています。そんな新しいことに対応できるように、日ごろから情報収集を行うことも大切だと考えています。そして、市民の皆さんの安全、安心を守ることを第一に、ポンプ場を維持し、運営していきます。